



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
 コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西田 寛
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 長尾 拓昭
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

TEL 075-841-9385

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	8,749	△0.8	547	9.9	518	10.3	280	9.5
26年3月期第3四半期	8,819	2.4	497	6.6	470	12.4	256	△2.7

(注)包括利益 27年3月期第3四半期 349百万円 (20.7%) 26年3月期第3四半期 289百万円 (△2.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	14.12	—
26年3月期第3四半期	12.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	17,007	5,005	26.2	223.68
26年3月期	17,109	4,703	24.4	209.84

(参考)自己資本 27年3月期第3四半期 4,450百万円 26年3月期 4,175百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,400	△1.9	410	2.5	360	0.3	370	△5.0	18.59

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	20,000,000 株	26年3月期	20,000,000 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	102,563 株	26年3月期	101,632 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	19,897,921 株	26年3月期3Q	19,899,147 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日～平成26年12月31日)におけるわが国経済は、株価の上昇気配はあるものの景気回復には依然、限定的であり、平成26年4月の消費税増税や為替不安等による需要減退が長期化するなど、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、グループ各社間の連携を強化することで、地域や特性に合わせた営業活動を実施するとともに、お客様の要望や期待を的確に捉えるため、お客様目線に立った取り組みを実現できるよう努力してまいりました。

以上の結果、当第3四半期における連結の営業収益は8,749百万円(前年同期比69百万円、0.8%減)となり、営業利益は547百万円(前年同期比49百万円、9.9%増)、経常利益は518百万円(前年同期比48百万円、10.3%増)、そして四半期純利益は280百万円(前年同期比24百万円、9.5%増)となりました。

次に、事業別セグメントの状況をご報告いたします。

① 運輸業

鉄軌道事業におきましては、嵐山線では、定期外運賃への消費税未転嫁による影響が懸念されましたが、円安の好影響を受け、国外からのお客様が引き続き増加するとともに、沿線のお客様のご利用も増え、運輸収入は堅調に推移しました。このような状況のなか、秋の観光シーズンには新たな試みとして電車運行間隔を短縮することで、電車の待ち時間を減らし、スムーズかつ快適にご乗車いただけるよう努めました。また、「京都・嵐山花灯路」やクリスマス期間中に京都市営地下鉄、京都府立植物園、右京区役所と連携したスタンプラリーを実施するほか、多くのイベントを開催し、ご乗車いただく機会を創出しました。

なお現在、京都市の「西院地区バリアフリー移動等円滑化基本構想」のもと、お客様のさらなるご利用を目指し、当社嵐山線「西院(さい)駅」におけるバリアフリー対応および阪急電鉄「西院(さいいん)駅」との結節改善事業の準備に取り組んでいます。

叡山ケーブル・ロープウェイでは、秋の観光シーズンにはナイター運行を実施し、ガーデンミュージアム比叡と連携して多くのお客様を比叡山にお迎えしました。また、平成26年4月に整備しましたケーブル八瀬駅近くの「八瀬もみじの小径」は初めての紅葉シーズンを迎え、多くのお客様で賑わいました。

バス事業におきましては、安全運行に資するため、睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査の厳格化やインフルエンザの予防対応など乗務員の健康管理の充実に取り組みました。京都バス㈱では、秋の観光シーズンには京阪電鉄と連携し、大原方面行へのイベントバス「洛楽バス」を運行したほか、「京都・嵐山花灯路」や貴船船社のライトアップ実施期間に合わせた延長運行など、路線バスの利用促進に取り組みました。なお、平成26年3月から開始された京都市交通局「市バス・京都バス一日乗車券カード」の利用状況は、京都駅から嵯峨・嵐山方面への交通アクセスが向上したことで増加しました。京福バス㈱では、平成26年10月に福井市内を中心に新規需要の拡大を図るため経路・ダイヤ変更を行ったほか、北陸新幹線の金沢駅開業を見据えた県内観光名所を一日で回る「福井の一押しバスツアー」を新たに運行しました。

タクシー事業におきましては、福井地区のタクシー3社では、北陸新幹線開業による観光のお客様需要に応じるため、ハイグレードタクシーの導入など、営業強化に取り組む一方、グループ間での本社・営業事務所の共有化や集中配車の充実など、グループの相乗効果を引き出すため経営の効率化を進めました。

以上の結果、運輸業の営業収益は5,905百万円(前年同期比41百万円、0.7%減)となり、営業利益は157百万円(前年同期比26百万円、20.1%増)となりました。

② 不動産業

不動産分譲事業におきましては、㈱京福コミュニティサービスでは、あわら市二面(ふたおもて)の分譲土地の販売が終了し、現在は福井市内において新たな分譲事業土地販売に向けて土地造成工事を進めています。

不動産賃貸事業におきましては、平成26年10月に「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」に隣接する不動産物件を取得し、これからの嵐山の拠点機能の強化や嵐山地域での事業拡充に向け取り組んでいます。「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、増加傾向にある嵯峨・嵐山にお越しになるお客様に立ち寄っていただくため、「らんでん日本酒まつりin嵐山」の開催をはじめ、京都水族館との共同イベント「移動水族館(くらげの展示)」など、様々なイベントを実施しました。

「BOAT RACE 三国」では、場外発売所での発売日数や発売レース数を増加させるとともに、大型レースを誘致するなど、お客様の来場を図るための取り組みを行いました。一方、スマートフォンの普及によりインターネットによる舟券発売が好調に推移するなか、インターネットユーザーを惹きつけるためのキャンペーンを実施するなど、インターネット投票のさらなる拡大に取り組みしました。

以上の結果、不動産業の営業収益は1,630百万円(前年同期比59百万円、3.5%減)となり、営業利益は295百万円(前年同期比5百万円、1.9%減)となりました。

③ レジャー・サービス業

飲食業におきましては、「中国料理 吉珍樓（キッチンロウ）」、「八幡家（やわたや）」、「京都ぎをん八咫（やた）博多店」の各店舗において、消費の落ち込みや原材料費が増加するなかで、宴会用新メニューの開発や近隣のホテル・企業への営業、新聞等へのチラシ配布によるお客様の取り込みをはじめ、予約サイトのリニューアルなどご利用機会を増やすためのきめ細かな営業活動を実施しました。

越前松島水族館では、「ダイオウイカの展示」や「オウサマペンギンの初詣」など、数多くの情報発信に努めるとともに、お子様やご家族で楽しんでいただける当館ならではの取り組みを実施したほか、イルカショー観覧席の増設ならびに通路やトイレ整備など、サービス向上のための設備工事を行いました。また、三国観光ホテルでは、温泉施設「和畳の湯」をリニューアルしたほか、クリスマスパーティなどのイベントを催し、ご来館のお客様に楽しいひと時を提供できるような取り組みを行いました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は1,681百万円（前年同期比7百万円、0.5%増）となり、営業費用の減少もあり営業利益は96百万円（前年同期比30百万円、47.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、現金及び預金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ101百万円減少し、17,007百万円となりました。負債は、未払金や有利子負債の減少などにより、前連結会計年度末に比べ403百万円減少し、12,002百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ301百万円増加し、5,005百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年4月30日の「平成26年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,438	1,318
受取手形及び売掛金	1,069	1,048
販売土地及び建物	21	52
商品及び製品	20	35
仕掛品	-	4
原材料及び貯蔵品	67	36
前払費用	36	37
繰延税金資産	100	82
その他	58	83
貸倒引当金	△16	△8
流動資産合計	2,798	2,691
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,599	8,439
機械装置及び運搬具(純額)	929	942
土地	2,878	3,207
リース資産(純額)	811	704
建設仮勘定	49	6
その他(純額)	365	341
有形固定資産合計	13,634	13,641
無形固定資産		
その他	95	79
無形固定資産合計	95	79
投資その他の資産		
投資有価証券	248	255
その他	320	331
投資その他の資産合計	568	586
固定資産合計	14,297	14,307
繰延資産		
社債発行費	13	9
繰延資産合計	13	9
資産合計	17,109	17,007

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	77	79
短期借入金	3,564	3,569
1年内償還予定の社債	331	291
リース債務	206	189
未払金	650	364
未払法人税等	120	75
未払消費税等	88	236
賞与引当金	235	84
その他	491	546
流動負債合計	5,767	5,437
固定負債		
社債	655	444
長期借入金	3,539	3,700
リース債務	625	537
長期未払金	665	631
繰延税金負債	443	492
役員退職慰労引当金	150	164
退職給付に係る負債	335	280
その他	223	313
固定負債合計	6,638	6,564
負債合計	12,406	12,002
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	270	270
利益剰余金	2,905	3,147
自己株式	△14	△15
株主資本合計	4,161	4,402
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47	56
退職給付に係る調整累計額	△33	△8
その他の包括利益累計額合計	13	47
少数株主持分	527	554
純資産合計	4,703	5,005
負債純資産合計	17,109	17,007

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業収益	8,819	8,749
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	8,226	8,107
販売費及び一般管理費	94	94
営業費合計	8,321	8,202
営業利益	497	547
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	6
負ののれん償却額	15	5
雑収入	19	20
営業外収益合計	41	32
営業外費用		
支払利息	60	51
社債発行費償却	5	3
雑支出	3	5
営業外費用合計	68	60
経常利益	470	518
特別利益		
投資有価証券売却益	—	11
固定資産売却益	39	8
特別利益合計	39	19
特別損失		
固定資産除却損	52	9
補修工事費用	—	27
特別損失合計	52	36
税金等調整前四半期純利益	457	502
法人税、住民税及び事業税	102	128
法人税等調整額	80	63
法人税等合計	183	192
少数株主損益調整前四半期純利益	274	310
少数株主利益	18	29
四半期純利益	256	280

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	274	310
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14	7
退職給付に係る調整額	—	31
その他の包括利益合計	14	39
四半期包括利益	289	349
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	270	315
少数株主に係る四半期包括利益	19	34

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	5,928	1,481	1,409	8,819	—	8,819
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	18	208	264	491	(491)	—
計	5,946	1,689	1,673	9,310	(491)	8,819
セグメント利益	131	301	65	498	(0)	497

(注) 1 セグメント利益の調整額△0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	5,890	1,432	1,427	8,749	—	8,749
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	15	197	253	467	(467)	—
計	5,905	1,630	1,681	9,217	(467)	8,749
セグメント利益	157	295	96	549	(2)	547

(注) 1 セグメント利益の調整額△2百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。